

政府主催「国際シンポジウム－拉致問題解決に向けた国際連携－」
加藤拉致問題担当大臣基調講演

平成27年12月12日（土）

皆さん、こんにちは。御紹介賜りました、拉致問題担当大臣を務めさせていただきます加藤勝信でございます。

本日は、師走の週末にもかかわらず、「政府主催国際シンポジウム－拉致問題解決に向けた国際連携－」を開催いたしましたところ、多くの皆さん方にお越しをいただきまして、まことにありがとうございます。

我が国では、法律により、毎年12月10日から16日までを北朝鮮人権侵害問題啓発週間と定めております。拉致問題など、北朝鮮当局による人権侵害問題についての理解を深めるため、この期間中、政府、自治体、さらには民間団体等によって、さまざまなイベントが開催されております。本年は政府主催のイベントとして、この北朝鮮における人権の改善を求める国際社会の動向と我が国の拉致問題の解決をテーマに、国連、関係国、そして拉致被害者御家族及び有識者を代表する方々をパネリストとしてお招きいたしまして、国際シンポジウムを開催することといたしました。

北朝鮮による拉致・人権侵害は、国家が政策的、制度的にこれを実行しているものであり、世界でも類を見ない悲惨であり、かつ、深刻な問題であります。そのような深刻な人権侵害問題の中に、まさに拉致問題があるわけであります。拉致問題は、個人の自由や尊厳、そして、将来の夢や希望を打ち砕く、また、家族の大切なきずなを引き裂く、人権・人道上も由々しき問題であります。世界人権宣言や国際人権規約にも違反する、人類普遍の価値や国際社会に対する、まさに冒瀆であります。

本日の国際シンポジウムは、拉致被害者の方々の1日も早い帰国の実現を目指し、北朝鮮に対する国際的な連携強化、この一環として開催するものであります。北朝鮮が昨年7月に特別調査委員会を設置し、拉致被害者を含む全ての日本人に関する調査を開始するとしてから、既に1年半近くが経過をしております。

しかし、本日に至るまで、拉致被害者の方々の帰国の実現、これがなされていない、また、それに対する道筋も見えていない、甚だ遺憾であります。私も就任以来、拉致被害者の方々の御家族とお会いをし、肉親との1日も早い再開を待ちわびておられる本当に切なる思いを直接伺ってまいりました。

また、御高齢の御家族の方々のそのお姿を拝見するにつけ、また、北朝鮮において1日も早い祖国への帰国を願っておられる拉致被害者の方々の心情や、あるいは健康の状態を思うと、もはや一刻の猶予も許されない、こういう思いを強くしているところであります。

北朝鮮が拉致問題をはじめとする人権問題に真正面から向き合っており、真摯に取り組もうという姿勢を見せない中でありまして、国際社会においては、北朝鮮の人権状況を改善する、それを求める機運は、これまでになく高まっております。

一昨年3月には、国連人権理事会において北朝鮮における人権に関する国連調査委員会（COI）が設置され、昨年2月には北朝鮮国内における人権蹂躪の実態について、詳細な報告書が公表されたところでございます。これを受け、昨年末、国連総会では、拉致問題を初めとする北朝鮮の人権侵害を非難し、国連安全保障理事会による国際刑事裁判所への付託の検討を含む、これまでになく非常に強い文言の決議を圧倒的多数で採決したところであります。

本年も先月、国連総会第3委員会において、我が国とEUが共同提出いたしました北朝鮮人権状況決議が59カ国の共同提案国を得て、また同委員会では過去最多となる112カ国の賛成にて採決をされたところでございます。この決議は、今月の国連総会本会議で改めて議決に付される予定であります。昨年以上の多くの賛成を得るべく、各国に対して精力的に支持を働きかけているところであります。

また、昨日ではありますけれども、昨年に引き続き、安全保障理事会において、拉致問題を含む北朝鮮の状況が包括的に議論をされました。また、今年は、理事会メンバーではありませんけれども、日本の吉川国連大使から、拉致被害者の1日も早い帰国の実現を含む北朝鮮の人権状況改善に向けた誠意ある対応を強く求めたところであります。

す。

拉致問題は、安倍政権の最重要課題であり、政府の責任において最優先で取り組むべき、解決すべきものであります。拉致認定の有無にかかわらず、全ての拉致被害者の1日も早い帰国に向けて、国際社会とも連携をしながら、対話と圧力、行動対行動の原則を貫き、安倍総理の強いリーダーシップのもと、関係省庁との連絡を緊密に図りつつ、政府一体となって全力で対応してまいります。

本日は、日本を代表する国際ジャーナリストのお一人である道傳愛子NHK解説委員にモデレーターをお願いし、また、大変お忙しい中を、北朝鮮の人権問題に取り組む国際社会を代表するパネリストの皆様にもお越しをいただきました。パネリストの皆さん方、今日は本当にありがとうございます。

どうか皆さん方には、今、私が申し上げた、拉致問題をめぐる状況の中、全ての拉致被害者の1日も早い帰国に向けた具体的な行動を北朝鮮から引き出すために、どういう方法が有効なのか、こういう観点から積極的な御議論をぜひともお願いしたいと思います。

また、本日は、会場の皆様から、パネリストに直接御質問いただく時間も用意しております。どうか会場の皆さんにも積極的に御参加をいただき、議論をさらに深めていただければと思っております。

なお、パネルディスカッションに続いて、拉致被害者御家族や御有志の方々からなる合唱団によるミニコンサートも予定をしております。ぜひお楽しみをいただければと思います。

最後になりますが、本日のイベントが拉致問題を含む北朝鮮の人権問題に対する理解を深める機会となりますことを期待いたしますとともに、今回の議論も踏まえ、政府としては、拉致被害者の方々の1日も早い帰国の実現に向けて、全力で取り組んでまいりますことを改めてお約束をいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

(以上)